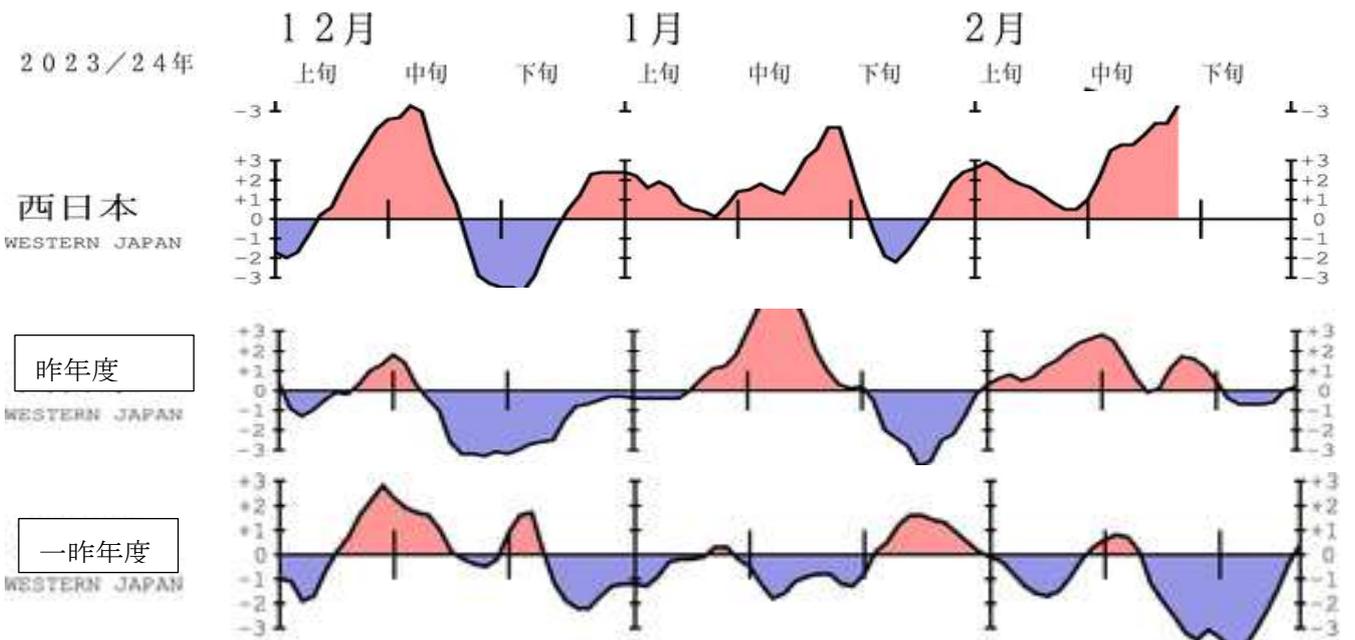


日本の歌百選にも選ばれている「早春賦」の冒頭に ♪～春は名のみ野の寒さや・・・♪の歌詞がつけられています。また、ひと昔前までは近畿圏では「奈良のお水取り」が終わらなければ本格的な春は訪れない・・・などと言われて来ていましたが、これはいつ頃までの事でしょうか。最近では、この様な状況どころか、過っては3月上旬に出現し、太平洋側に降雪をもたらす”台湾坊主”（最近では「南岸低気圧」と言う）が1月末に現れ関東で降雪騒ぎ、最も寒い季節とされて来た2月上旬の気温が4月末～5月の気温が記録され、何と2月19、20日に至っては群馬県伊勢崎市では25.3℃という夏日さえ記録されるなど異常な気象が続いています。この様な現象は何も関東に限ったことでなく、この附近でも前報でも書いたように、野草でもタンポポ、カラスノエンドウ、オオイヌノフグリなどの開花が見られます。また、この近くの特異現象かも知れませんが外来種の「オオキバナカタバミ」が街路や空き地で多くの群落をつくって咲き誇っています。（カタバミの拡大戦術は実に巧み後述します。）

街中だけではありません。最近の報道でご承知でしょうが六甲山山上にある「展望台・六甲枝垂れ」では従来冬季に山上で凍った氷を切り出し氷室に保存、夏季の施設内の冷房に用いて来ていましたが、今年は結氷が見られず氷室は空、この夏の冷房をどうしようか？ また、日本海側の神鍋は勿論、標高の高い鉢伏高原ですら雪不足で「人口雪」で何とか一部スキーは出来る状況にはなっているようですが・・・施設維持が困難になり、県が補助金を出す。等々のニュースが流れてきています。後述のように3月以降の気温も高めに推移、山々の樹々の芽吹きもかなり早くなるとが予想されます。

前報では、この地域の気温について2022～2024年の3年間の11月～1月の気温の傾向・経過を積算温度という形で紹介致しました。これは、この3ヶ月間の気温（積算温度）がソメイヨシノなどの「休眠打破」に大きく影響するのでは？と考え紹介したものです。

では、実際に今期の冬の気温は昨年や一昨年に比べどのように経過して来ているのか、今後どのように予想されているのか。また、気象会社等プロは今年のソメイヨシノの開花をどのようにみているのか？既に開花がみられた早咲きサクラの状況等から書き連ねて行きたいと思えます。



## 1. 今期の12月～2月の近郊の気温経過

\*西日本の12～2月の気温経過（平年差との比較図で・・・）前頁に記載

\*一昨年度（2022年）は寒い冬、昨年（2023年）は12月は寒冷、1月は寒暖の差の大きな月であったが均せば平年なみ、2月は暖冬気味であり、この後3月の気温も高めに推移した為、各地でサクラの開花が早まったという経緯であった。今期に関しては、12月に一時強い寒気の流入はあったものの1月、2月は可成り高い気温が続いてきている。この気温経緯を見る限り、西日本のサクラの休眠打破の遅れは否定できないであろう。

\*この附近（神戸地方気象台）の11月～2月の過去・今年の気温℃・積算温度（℃/Day）の比較

月	11月	12月	1月	2月	11～1積算	12～2月積算
平年値	14.2	8.8	6.2	6.5	891	647
2020年度	14.6	9.9	8.8	8.2	956	747
2021年度	15.1	8.8	6.1	8.8	915	708
2022年度	14.5	8.9	5.7	5.6	888	609
2023年度	15.8	7.9	6.6	7.2	924	646
2024年度	14.7	9.7	8.5	9.0	1005	816

\*11月～1月の積算温度はソメイヨシノ等の「休眠打破」に関係すると思われる数値。

12月～2月の積算温度は「冬季」の気象状況で、近郊ではウメの開花や早咲きの河津桜の開花に影響する値と考えている。勿論、冬芽など形成しない草本類の開花にも影響する値と考えられます。

・それにしても、今年の冬季、特に1月、2月の気温の高さは異常。上記は、この地区の神戸気象台のデータを表示していますが、絶対値には多少差はあるでしょうがこの地域全体に傾向は同じでしょう。

## 2. 向う3ヶ月の気象予報

2月20日・気象庁の発表した今年の近畿地区3月～5月の気象予報は以下の通りです。

平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は太平洋側では平年並みとの予報です。

・各月の予報は以下のとおりです。

**3月** 近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

気温	低い	30%	平年並み	30%	高い	40%
降水量	少ない	30%	平年並み	40%	多い	30%

**4月** 近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

気温	低い	20%	平年並み	40%	高い	40%
降水量	少ない	30%	平年並み	40%	多い	30%

**5月** 天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

気温	低い	20%	平年並み	40%	高い	40%
降水量	少ない	30%	平年並み	40%	多い	30%

### 3. ウメの開花情報

前報でお知らせしましたように、今年は色々な方からウメの開花が早いのではないかと聞かれます。ウメの開花については、気象庁の「生物季節観測」の継続観測9項目に残されており、全国の開花状況を知ることが出来ます。2月20日時点で、新潟、水戸以西で長野を除く39地点での開花が報告されています。殆どの地域で、平年比で10～20日早い開花が報告されています。

### 2024年度のウメ(白梅)開花日 近畿地区

観測地	開花日	平年比	昨年比
奈良	1月15日	16日	3日
神戸	1月19日	18日	24日
和歌山	1月30日	13日	18日
彦根	2月1日	19日	9日
大阪	2月2日	11日	20日
京都	2月14日	8日	14日

\*平年比、昨年比の日数は“早い”赤字は遅いです。

・参考までに、近畿地域の開花日、平年比、昨年比をお知らせしておきます。ただし、ウメの開花日については以前に書いたと思いますが、単に「白梅」と定められているだけで、サクラのように品種までは決められていません。あくまでも各気象台が“標準木”と定め観察して来ている「白梅」のデータですので、皆さまの周りのウメの開花などはかなり異なった状況になっているかも知れません。

この辺りでは白花のウメは1月中旬にはチラホラ咲きとなっていることをお伝えしました。勿論1月末には紅梅の開花も多く見られ、遅れていた紅花の枝垂れ梅も現在は満開寸前となっています。

### 4. サクラの開花情報

#### \*ヒカンザクラ (カンヒザクラ)

気象庁の発表する奄美・沖縄地区のサクラの開花日・満開日の標準種はヒカンザクラ(別名カンヒザクラの方が良く使われるが・・・)であることはご承知の通りである。今年も既に4地域の開花・3地域の満開日が公表されていますので下記に纏めておきます。

地域	開花日	平年比	満開日	平年比
宮古島	1月5日	12日早い	2月2日	7日早い
沖縄(那覇)	1月13日	3日早い	2月5日	1日遅い
奄美(名瀬)	1月17日	3日早い	2月2日	平年並み
石垣島	1月22日	4日遅い	報告未	

・石垣島については、昨年度2月2日の開花でしたが満開日は記録されていません。今年も満開に至らない可能性があるように思います。

ひと昔前まで奄美・沖縄地域のヒカンザクラの開花は「休眠打破」の影響が大きく、北から南へ、山上から麓へと進むと言われて来ましたが、最近はそのような傾向はなく、バラバラの様です。またここ数年は、開花日は記録されても宮古島や石垣島などでは満開日が記録されない年も出て来ていましたが、今年石垣島はどうでしょうか。

なお、住居近では芦屋川沿いの公園に樹高4～4.5mほどの若木5本が植えられておりここ数年観測してきて



いますが、1月末では冬芽が幾分膨らみ、先が緑色になって来ている程度で開花はまだ先と思っていましたが、2月の気温が異常に高かった所為か2月の18日に1本で5輪以上の開花が見られました。

下記に観測始めた2020年以降の開花日と11月始めから開花日の積算温度を纏めておきます。

年度	開花日	積算温度	
2020年	2月10日	623	℃・Day
2021年	2月21日	630	
2022年	3月3日	631	
2023年	3月4日	690	
2024年	2月18日	725	

- ・ 暖冬の年ほど早く開花する傾向が見られます。11月～開花日までの積算温度は2020年～2022年間はほぼ一定であったが、昨年と今年はかなり高い値となっています。多分、秋季の気温、特に11月初旬の気温が高めに推移するようになって来ているので、休眠打破？の時期に遅れが生じて来たのではないかと考えています。

### \*カワズザクラ

前報で記述したように、秋から開花の見られるジュウガツザクラやコブクザクラを除いて、年が改まり最も早く咲くサクラは**熱海桜**とされてはいるが、地域限定品種で全国には広がっていない。従って全国的に最も早くサクラの代表は、伊豆半島・河津地区で突然変異で生まれたとされる**カワズザクラ**である。原木のある**河津町**では毎年「さくら祭り」が開催され多くの観光客が訪れることで有名である。このカワズザクラは全国各地にも植栽され、それぞれの地域で「さくら」の名所として、ニュースでもしばしば取り上げられる。このサクラは冬季の気温に敏感？で暖地ほど早く開花するらしく、静岡県や和歌山・白浜などの開花がニュースとして伝えられている。関西では、ご承知のように京都、**淀**が有名。

このサクラは、住居近くの芦屋市・東山町の「東山公園」に約50本が植栽されており、南斜面の若木の方は2月10日頃に開花、私の標準木としている成木も2月12日に開花が見られました。この種も開花は冬季気温・積算温度に依存するようです。3月3日に地域の「さくら祭り」が開催されます。

	開花日	満開日
2020年	2月10日	2月25日
2021年	2月21日	3月5日
2022年	3月3日	3月14日
2023年	2月25日	3月9日
2024年	2月12日	



上は開花日の画像、下は5日後1分咲きとなった時の画像です。大型のピンクの花なので目立ちますね。

## 5. 今年のソメイヨシノの開花日は？

既報のように、サクラの開花と言えば何と言っても日本国民の意識では「ソメイヨシノ」の開花である。ソメイヨシノの開花は前述の2種ほど単純ではない。ひと昔前までは2月1日を基準とし以降の気温の動向を想定して開花日を予想するのが一般的方法であった。この方法でも以降の気温経緯が正確に予想出来ていれば、「当たらずとも遠からず」であったであろう。また、南から北への「さくら前線」が堂々とまかり通っていた。近年は開花に大きく影響する「休眠打破」の概念が考慮され、且つ気象庁の発表する「向う3ヶ月間の天気予報」などが考慮されて各気象会社が競って「開花予報」を発表して来ています。また、気温の経過なども見て逐次修正版が出されてきています。

・今年は前述の通り全国的に暖冬気味に推移して来たことから、休眠打破の時期は遅れそうであり、2月、3月の気温も平年よりは高くなるとの気象庁の発表もあって、各社とも開花は平年並み～やや早いとの予想が出されて来ています。ごく最近（2月21日）に発表された日本気象株式会社の第4回目の修正版から近畿地方の開花日の予想を掲載しておきます。

**\*全国的に平年並みか平年より早い開花に：**今シーズンは全国的に休眠打破の時期は平年より遅くなる見込みですが、休眠打破後の気温が平年より高めと予想され花芽の生長速度も速く、休眠打破の遅れを取り戻すため、全国的に平年並みか平年より早い開花となるでしょう。3月19日に高知で開花がスタートし、続いて関東甲信・東海・九州地方の地点でも続々と開花し始める予想となっています。

・近畿地区では開花は、平年並みか平年より早い10月は平年並み、11月から12月にかけては平年より高めの気温でした。1月は平年よりかなり高め、2月から3月にかけては平年より高めの気温が予想されるため、開花は、平年並みか平年より早いと予想。

### 日本気象協会 2月21日 17時 発表

近畿地方の開花予想日

	地点	開花予想日	平年差（日）	昨年差（日）
大阪府	大阪市	3月22日	-5	+3
奈良県	奈良市	3月25日	-3	+5
京都府	京都市	3月22日	-4	+5
滋賀県	彦根市	3月28日	-4	+3
兵庫県	神戸市	3月24日	-3	0
和歌山	和歌山市	3月20日	-4	0

・参考にして下さい。

## 6. 既にソメイヨシノの揚水が始まっています。

前報で、1月末にソメイヨシノの樹皮表面に樹脂状の固形物が見られ、揚水の痕跡では無いかと伝えました。この固形分は、昨年の「サクラだより」4号で解説した、「サクラの樹の揚水」に伴う栄養分（糖類？）の滲出固化物と思われました。ただ、その後には新たな痕跡が見られず、今年の揚水は終わったのかなと思っていましたが、これは間違いであることを知りました。実は昨年のサクラ開花調査時に、開花の進行が一時停滞、その後降雨の降雨で翌日には樹皮表面に揚水によると思われるゲル状物噴出が認められ、これを契機に開花が進行するという事態が発生・・・サクラの開花には休眠打破だけでなく、この揚水が極めて重要なファクターでは無いかとの疑念が生じたのです。

右に最寄りの西宮アメダスのここ 3 年の冬期の降水量測定値 (単位mm) を示します。平年に比べて如何でしょうか? 去年は 1 月の降水量が多く 2 月? の揚水は問題なかったのでしょうか。ただ、本年は 12 月、1 月の降水量は平年の半分にも達していません。これで十分な揚水が賄えたのでしょうか? 答は No. でした。今年 2 月の降水量をご覧ください。2 月中旬にまとまった降雨があり

西宮アメダスの降水量記録

月	12月	1月	2月
平年	63.3	46.9	73.8
2022年度	56.5	18.0	17.5
2023年度	20.0	59.0	31.0
2024年度	26.0	22.0	48.0*

\*2月上旬+中旬の値

その翌日に新しい揚水の痕跡 (下の写真のようなゲル状物) が所々で見られました。この揚水を考えない



とソメイヨシノの開花の諸状況・開花はとも角、花や葉の展開の状況、高所の枝先の開花遅れ、花期、枝先端の枝枯れ、など説明できないのではないのでしょうか?

今後も降水後の樹皮の状況など注視して行きます。

### 7. サクラの咲くメカニズムについて (他の専門家・の見方は?)

本科、溝部さんから、2月3日にご本人が受講された櫻守の会主催の「宝塚・里山公開講座「桜の生長と開花の生理学」(演者略)の詳細な講座録を頂いた。44枚もの、PP資料でサクラのみならず、ウメやポプラなどの開花や展葉と温度との相関データや、桜の生理、病理、虫害等々広範な内容であり、部分的には受講したわけでないのに理解出来ない部分も含まれるが、かなりこれまで「サクラだより」等で記述して来た内容とも重複する部分も多い。(開示データは少し古い印象ではあるが・・・)

ただ、「休眠芽」に関しての記述、冬芽は7月を過ぎるとでき始める (○)

葉でアブシシン酸合成→芽へ (○)・芽の休眠が最も深いのは10月頃 (?)・休眠の覚醒には低温が決めて (5~10℃?) 11月を過ぎると徐々に目覚める (?) 晩秋芽のアブシシン酸 ABA は低温で分解、同時に生長促進ホルモン・ジベレリン GA が増加 (季節は X, ABA 消失 GA の増加は ○) 1月の外気温は基も低い・・・しかし、もう目覚めている (? or X) など疑問が多い。

### 8. 冬芽の加温テスト

予告通り、今年は暖冬であり休眠打破は遅めと考え2月11日より既報の様な方法で切り枝加温テストを始めています。また、2月20日にも追加しています。当然? のことながら現時点で変化は見られません。

3月初旬に昨年開花が遅かった枝を採取加温テストに加えて見たいと思っています。開花遅れは「休眠打破」の



遅れなのか「揚水」が影響したのかが明確になるのではと思っています。

・ところで、前ページ右下の写真、2月8日の武庫ネイチャーの武田尾での「冬芽観察会」で葉腋ではなく枝痕に冬芽がつくと切り枝し説明した資料を持ち帰り加温しテストして見たものです。10個ほどの芽のうち10日ほどで花芽1個と葉芽2個が展葉しました。この樹木は何でしょう？

## 8. クビアカツヤカミキリについて・・・

2月16日の19時30分のNHK「かんさい熱視線」という番組で、

### 桜が喰(く)われる 外来カミキリムシ被害

いま関西で特定外来生物クビアカツヤカミキリの被害が急増している。桜や梅などの樹木に産卵し、幼虫が木の内部を食い荒らし枯死させる。被害の実態と対策の難しさを追う。和歌山では、梅の一大産地のすぐそばまで迫り、県や農家は危機感を募らせている。また、公園などに加えて住宅など私有地に植わる木の対策に乗り出す自治体が現れるなど、それぞれの地域で試行錯誤が続いている。拡大するクビアカツヤカミキリの被害の実態と対策の難しさを追う。

この番組をご覧になった方もあるかもしれませんが・・・番組では、大阪府貝塚市の街路樹の実害（枯れ死・切り倒し処置）や和歌山県における「ウメ」の果樹への被害などが放映されていました。また、駆除法もなかなか難しいなど実例放映。大阪府では以下の情報提供や駆除について通達が出されています。

・大阪府・「特定外来生物」クビアカツヤカミキリは、大阪府内では平成27年に初めて確認され、令和5年12月現在、21市町村で発生を確認しています。幼虫がサクラなどの幹を食べるため、木を弱らせて枯らしてしまいます。繁殖力が高く、放っておくと大量に増えてしまうため、見つけた際は、踏みつけるなど捕殺のお願いと、フラスなどが見られた場合の市・町などへの届け出が依頼されています。

以上

※写真左から、「クビアカツヤカミキリの成虫」「幼虫のフラス」「成虫の脱出孔」（大阪府広報より）

注：フラスとは、幼虫が排出する木くずとフンが混ざったものです。

